



高等学校との「交流及び交流学習」

県立沖縄ろう学校高等部

×

県立普天間高等学校
県立中部商業高等学校
県立石川高等学校

おきろう便り8号で本校小学部と沖縄市立中の町小学校との交流会をご紹介しましたが、今回は、高等部の本年度の「交流及び共同学習」の様子を紹介したいと思います。

まず、交流及び共同学習の意義・目的は、次のようになります。

「障害のある子供と障害のない子供、あるいは地域の障害のある人とが触れ合い、共に活動する交流及び共同学習は、障害のある子供にとっても、障害のない子供にとっても、経験を深め、社会性を養い豊かな人間性を育むとともに、お互いを尊重し合う大切さを学ぶ機会となる」

「交流及び共同学習ガイド」 文部科学省

また、沖縄県特別支援教育推進計画の中で、「特別支援学校に在籍する幼児児童生徒が地域との結び付きを強めるため、地域の学校との継続的な交流及び共同学習を推進します。」とあり、その成果指標には、

「高等学校における交流及び共同学習を推進するため、特別支援学校等(障害者施設、団体等を含む)との交流及び共同学習を実施している高等学校の割合を成果指標とし、目標値を 100%とする。」

「沖縄県特別支援教育推進計画」 県教育委員会

つまり、高等学校との交流及び共同学習がとても重要視されており、その実践の効果等をしっかり、評価して繋げていく必要があるということになります。

県立普天間高校 生徒会との交流及び共同学習

目的(1) 沖縄ろう学校生徒から普天間高校生徒へ聴覚障害の理解を促進する活動を行う。

(2) 交流及び共同学習を通じて、相互の多様な文化や価値観の理解を深める。

①学校見学

沖縄ろう学校卒業生 長間優奈先生が国語科教員として勤務しており、学校案内をしてくださいました。卒業後のロールモデルとしての学びもありました。

②視聴覚へ移動し、沖ろう生徒から聴覚障害について説明。

プレゼンテーション力がアップしており、とてもよい説明ができました。

③生徒同士の希望からフリートーク。生徒同士積極的にコミュニケーションとり、さまざまな話題で盛り上がる事ができました。



県立中部商業高校 生涯スポーツ科 3 年生との交流及び共同学習

生涯スポーツ科3年生（生徒21名）とは、お互いの学校で2回、実施しています。

第1回 場所:中部商業高校

- ① 教室で沖縄県生徒から学校紹介、生徒紹介、聴覚障害について説明
PowerPoint など事前準備を行うことで、しっかりと説明ができました。
- ② 体育館へ移動して、中部商業生徒がレクリエーションを企画
集団でのレクやバレーボールなど、普段の学校生活ではできない集団での活動を楽しみました。



第2回 場所:沖縄ろう学校

- ① 学校案内
ろう学校特有の施設などを案内
- ② 前回の交流及び共同学習で質問のあったこと
について本校から回答を行いました。
中部商業生徒の率直な疑問に、沖縄県生徒は
しっかりとわかりやすく回答、説明を行い、聴覚
障害について理解の促進となる共同学習ができた
ました。
- ③ 手話カルタ 手話クイズ
中部商業生徒より「手話を交えた交流及び共同学習がしたい」という依頼を受け、本校生徒が
中心となって企画し、簡単な手話の問題から難しい問題まで作成しました。
とても盛り上がり、充実した内容の交流及び共同学習になりました。



県立石川高校 数学科における共同学習

数学の授業をオンラインと対面で共同学習を行いました。

オンライン授業では、プリントを先にやろうとして通訳や画面を見ていなくて石川高校の先生の質問に慌てる場面もあったり、教室後方の黒板に石川高校の生徒が書いたフェルマーの定理が気になっていて、その後の石川高校での授業で対面した2人が1つのノートを共有して数学談義に花を咲かせたりしました。

他にも石川高校の生徒が覚えた「ぷりん」の手話で休み時間に盛り上がったり、韓国アイドルの話で盛り上がったり、お互いが楽しく学ぶことができました。

